

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

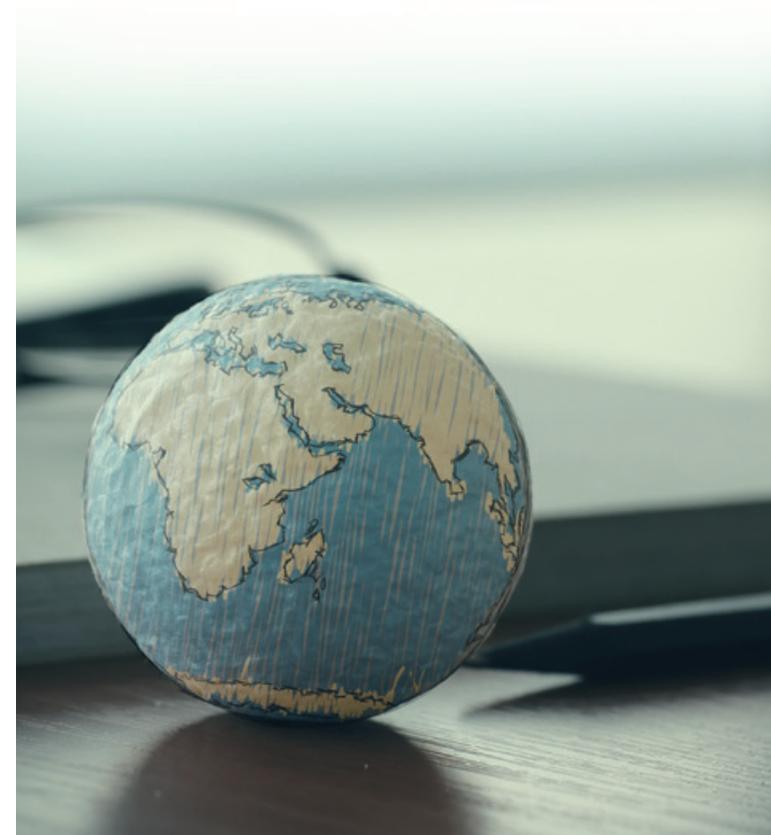
公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Business Report

第107期 報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日



To Our Shareholders

株主の皆様へ

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第107期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

平成30年6月

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益の改善を背景に、設備投資の増加や所得・雇用環境が改善され、個人消費も持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。海外におきましては、米国経済が引き続き好調を維持しておりますが、保護主義的政策をとる米国政権の動向や朝鮮半島における情勢不安などへの懸念もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当連結会計年度の売上高は574億3千1百万円（前連結会計年度比8.5%減）となり、営業利益は25億8千8百万円（同15.9%減）、経常利益は28億8百万円（同16.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は20億1百万円（同16.6%減）となりました。

当社グループにおきましては、コーティング事業におけるグローバルな事業展開を加速させており、米国、欧州、ASEAN諸国、中国及びインドにおいて現地法人を設立し、「藤倉化成グローバルネットワーク」として、製品の供給体制網の整備を行っております。更なる生産体制の強化を図るため、本年4月には、インドにおいて工場建設を完了し、操業に向けて準備を進めております。

当社は、子会社藤光樹脂株式会社における架空取引により、当連結会計年度において貸倒引当金繰入額を計上することとなりました。当社及び藤光樹脂株式会社では、徹底した再発防止に取り組んでまいります。

当社といたしましては、生産効率の向上や固定費削減などのコスト低減活動を行うとともに、技術開発に引き続き注力することによって事業領域の拡大を図り、持続的な成長と確実な収益基盤の確保に努めてまいります。

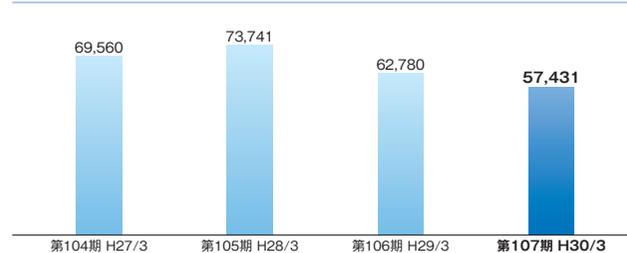
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **加藤 大輔**

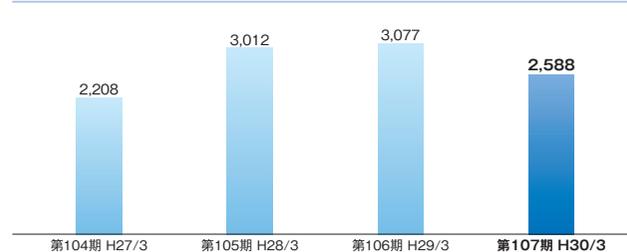
Financial Highlights

連結財務ハイライト

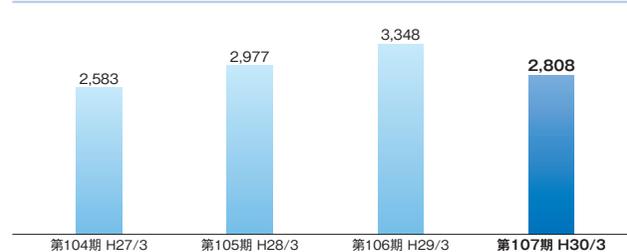
売上高 (単位：百万円)



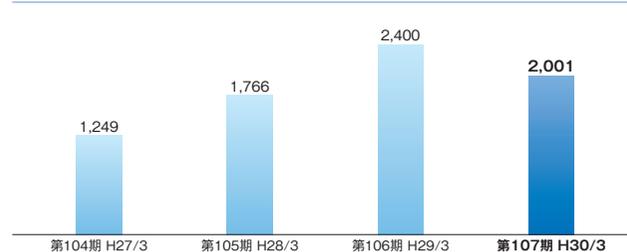
営業利益 (単位：百万円)



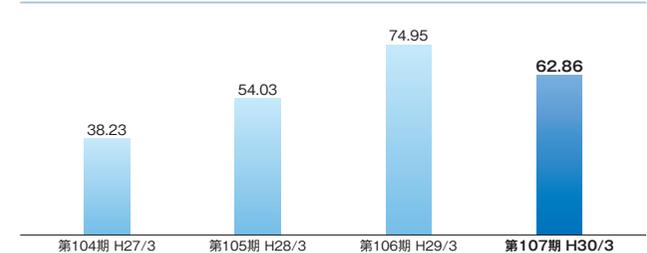
経常利益 (単位：百万円)



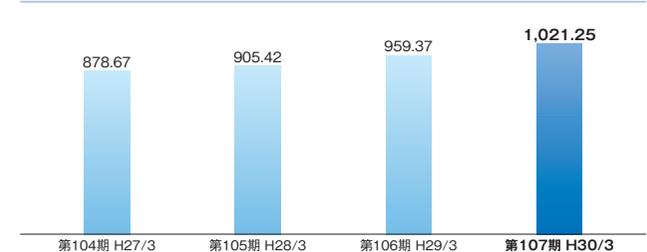
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



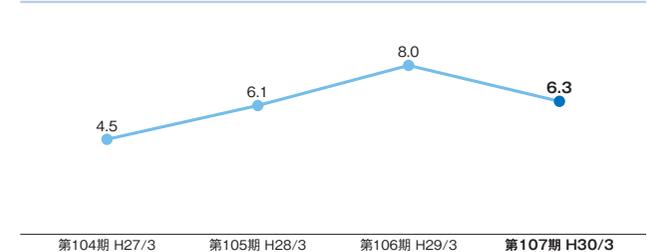
1株当たり当期純利益 (単位：円)



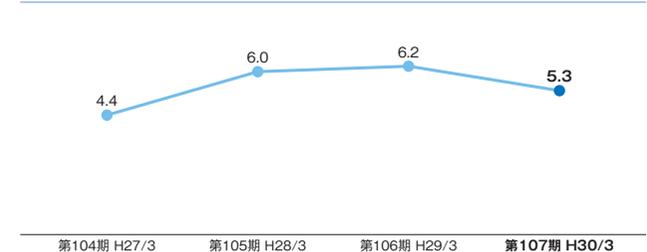
1株当たり純資産額 (単位：円)



自己資本利益率 (ROE) (単位：%)



総資産事業利益率 (ROA) (単位：%)



Segment Review

(単位：百万円)

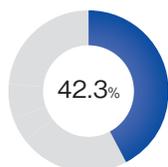
コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

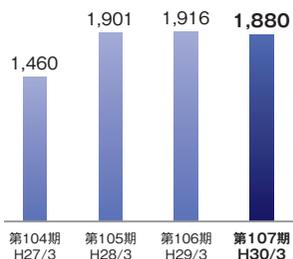
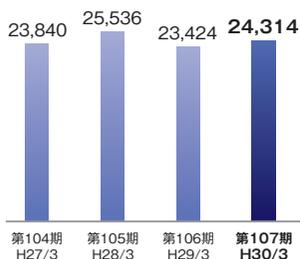
プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、主力の自動車向け分野において、国内市場では前年度をやや下回りましたが、海外市場においては、米国子会社であるレッドスポット社の業績が堅調に推移したほか、アジア市場における需要が現地法人のあるASEAN諸国を中心に拡大し、売上高は増加いたしました。



売上高構成比

売上高
243億1千4百万円
(前連結会計年度比3.8%増)

セグメント利益
18億8千万円
(前連結会計年度比1.9%減)



塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

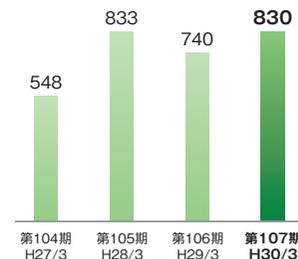
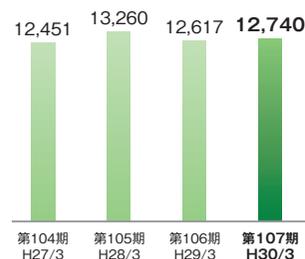
建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、リフォーム向け市場において、工事を伴う施工棟数が前年度に比べ増加するなど需要が堅調に推移したものの、新築住宅向け市場における需要が伸び悩んだことなどもあり、売上高は微増となりました。



売上高構成比

売上高
127億4千万円
(前連結会計年度比1.0%増)

セグメント利益
8億3千万円
(前連結会計年度比12.2%増)



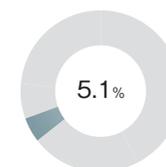
電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

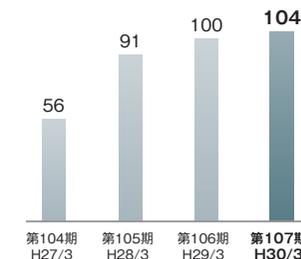
導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、パソコン向け市場での需要の減少や海外市場における価格競争の激化などがあったものの、国内における新製品の販売効果などにより、セグメント利益は前年度を上回り、売上高は前年度をわずかに下回りました。



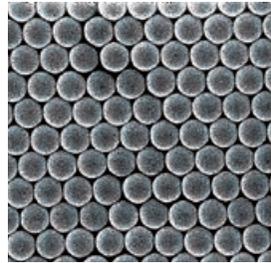
売上高構成比

売上高
29億6千6百万円
(前連結会計年度比0.7%減)

セグメント利益
1億4百万円
(前連結会計年度比3.7%増)



化成品事業



主要分野

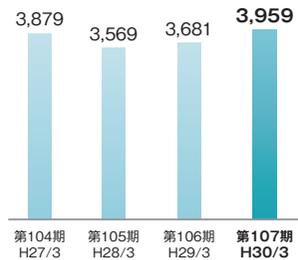
トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
医療材料分野、
電子部品関連分野

『アクリベース』の商品名で販売する機能材料やトナー用レジ、メディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、機能材料分野における新製品の販売が好調に推移したほか、トナー用レジ分野においても新製品の需要が拡大するなど、売上高は増加いたしました。

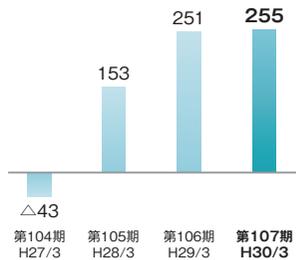


売上高構成比

売上高
39億5千9百万円
(前連結会計年度比7.5%増)



セグメント利益
2億5千5百万円
(前連結会計年度比1.5%増)



合成樹脂事業



主要分野

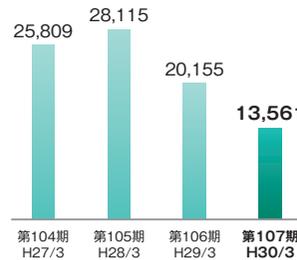
高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、藤光樹脂株式会社において第1四半期に発生したATT株式会社との間における架空取引により、貸倒引当金繰入額を計上するなどセグメント損失となり、また売上高につきましても大幅な減少となりました。

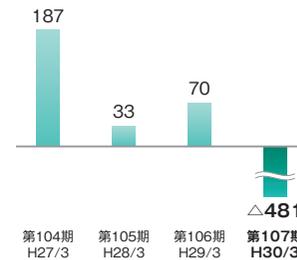


売上高構成比

売上高
135億6千1百万円
(前連結会計年度比32.7%減)



セグメント損失
△4億8千1百万円



会社概要 (平成30年3月31日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 昭和13年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,265名
単体 397名
連結子会社数 国内4社 海外15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,433名

株式の所有者別分布状況

